

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01554

研究課題名（和文）高齢多死社会日本におけるウェルビーイングとウェルダイングの臨床社会学的研究

研究課題名（英文）Clinical Sociology of Well-being and Well-dying in Super-Aged Japan

研究代表者

櫻井 義秀（Sakurai, Yoshihide）

北海道大学・文学研究院・教授

研究者番号：50196135

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中高年世代のウェルビーイングに大きく関わる老病死における介護・看護・看取りのあり方と、死生観および喪と追悼のあり方を臨床社会学的に研究するものである。

具体的には、過疎地域でソーシャル・サポートを提供するビハラスや在宅ホスピスなどの事例調査と、緩和ケアにあたる地域医療・福祉の担当者とグリーフケアにあたる臨床的調査を行い、日本人の死生観や現代日本の終末期医療を東アジアや北米圏とも比較検討し、最終的に「よき生（Well-being）とよき死（well-dying）」を包括するウェルビーイング論を櫻井義秀編『ウェルビーイングの社会学』北海道大学出版会として刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、医療者のみならず宗教者や臨床社会学の研究者によって、死の臨床をめぐる議論や緩和ケア医療、傾聴などの実践が興隆しているが、よき死（ウェルダイング）を迎えるためには出生から死去後のグリーフケアまでを含めた包括的なウェルビーイングの視点が必要である。本研究では、医療や宗教の臨床に関わる現場の実践者と研究者、比較社会学的な視点を持つ研究者のグループによって、現場の研究者や実践者、学生が参照できる『ウェルビーイングの社会学』というテキストを編纂することができた。

研究成果の概要（英文）： This study is a clinical sociological research, and deals with the ways of care, nursing, and end-of-life care in old age, illness, and death, which have a significant impact on the well-being of middle-aged and older generations.

Specifically, we will: 1) conduct case studies of viharas and home hospices that provide social support in depopulated areas; 2) conduct clinical surveys of community medical and welfare personnel involved in palliative care and grief care; 3) compare the Japanese view of life and death and contemporary Japanese end-of-life care with those in East Asia and North America; and finally, 4) a theory of well-being that encompasses well-being and well-dying was published in Yoshihide Sakurai (ed.), The Sociology of Well-Being, Hokkaido University Press.

研究分野：ウェルビーイング研究

キーワード：ウェルビーイング ウェルダイング 臨床社会学的研究

1. 研究開始当初の背景

(1) ウェルビーイング研究は、海外では OECD の Better Life Index やブータンの GNH、内閣府経済社会総合研究所の「幸福度指標試案」など国際比較と独自指標の策定による幸福度増進の施策研究、ポジティブ心理学、社会疫学、経済学・社会学による幸福感を高める一般的な要因を分析する学術的総合調査、子ども・高齢者・病者・貧困世帯など社会的排除を受けやすい人々へのケアという医療・福祉的臨床的研究から進められ、日本でも進展している。

(2) しかし、人口減少社会・高齢多死社会という日本の現状に鑑みれば、過疎地域の高齢者世帯や老病死に直面する中高年世代のウェルビーイングを高める視点や工夫がより強く求められる。高齢者や病者、介護や看護する人々にとって、ウェルビーイングは失われた若さや健康そのものではなく、死をも含めた特有の時間感覚やスピリチュアリティを伴うものとなる(櫻井 2017) 終末期の緩和ケア医療や死生学で注目されている患者へのスピリチュアルケアや遺族へのグリーフケアの実践は、ウェルビーイング研究と接続されることで包括的な生と死に対するケアとなるのではない(櫻井 2018)。

文献 櫻井義秀 2017a 「論説 宗教は人をどのくらい幸せにするのか? - 日本人の幸福感と宗教」『宗務時報』121: 1 - 19. 櫻井義秀編, 2018, 『しあわせの宗教学 ウェルビーイング研究の視座から』法蔵館。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的として、過疎地域の高齢者福祉においてソーシャルサポートを提供する宗教施設や付属福祉施設の事例研究をさらに進め、中高年期から人生の最終段階にかけて老病死に直面する当事者と支援者との関係に生じるケアとウェルビーイング・ウェルディングの関係について臨床的研究を行う。特に、緩和ケアや看取りにあたる地域福祉や医療の専門職、喪(グリーフケア)や追悼含めて対応する超宗派の臨床宗教師や医療者、終活や遺族会のセルフヘルプグループの調査を行う。そして、日本におけるウェルビーイング・ウェルディングの特徴や課題を浮き彫りにするべく、東アジア(韓国、香港)、西欧圏(アメリカ、カナダ)における施設ケア、尊厳死や平穏死、死生観にかかる比較研究を進める。(2) 本研究が東アジアと西欧的な死生観と尊厳死の観念や緩和ケア制度との比較において遂行され、そのことでより日本の特徴が明らかになり、同時に研究を国際的水準に保つために、研究代表者・分担研究者・研究協力者共に、ウェルビーイング、ウェルディング、スピリチュアルケアに関して国内外の理論・実践を主導する研究者からアドバイスを受け、研究者のネットワークも構築する。

3. 研究の方法

(1) 研究は臨床研究班(地域福祉/緩和ケア・グリーフケア)・宗教文化班(宗教施設とケア/臨床宗教師)・比較研究班(死生観/ウェルビーイング/ウェルディング)の3つのグループに分け、それぞれの分担研究の知見を年に二度の合同研究会で共有する。

(2) 臨床研究班では天使大学看護学科と北星学園大学社会福祉学科、宗教文化班および比較研究班では北海道大学と東北大学、龍谷大学の大学院生が研究に参加する。これらの大学院生が研究に参加することで、本調査研究は本研究領域における次世代研究者および専門職業人の養成にも貢献できる。

4. 研究成果

(1) 2019年には、ウェルビーイング、ウェルディング、スピリチュアルケアに関する専門家に講演を依頼し、その後に分担研究者と研究協力者を交えてブレインストーミング的な研究会を開催し、関心を持つ研究者や市民にも聴講を許可し、実践研究のネットワークを拡大した。セミナー 5/24 北海道大学 櫻井「宗教とウェルビーイング」9/6 北海道大学 櫻井「ウェルビーイングのライフコース的アプローチ」10/29 北海道大学 寺戸淳子「アレントの共通世界とラルシュ共同体の祝祭」樋口麻里「社会的排除に立ち向かうフランスの医療福祉専門家への調査」12/21 北海道大学 高橋原「臨床宗教師の実践的課題と制度設計」川又俊則「高齢牧師が信仰を守る場所」2020/2/14 北海道大学 平藤喜久子「神話・宗教学から考える死生観のゆくえ」李賢京「地方都市における外国人住民と教会」2019年 ワークショップ ワークショップ 5/20 北海道大学 櫻井「しあわせと宗教 - 日常の中にある臨床」北海道在住若手僧侶による社会貢献活動報告 11/24 ルーテルセンター 中山ひさ子氏と櫻井「対談 音楽療法とウェルビーイング」を行った。

(2) 2020年の3月から新型コロナウイルス感染拡大に伴い、研究環境・大学環境とも激変したが、オンライン・セミナーという新しい研究会をもち、国内外の研究者を招いて関心のある遠隔地にいる市民にも知見を開いていく試みを進展させた。5/17 北澤直宏氏(京都大学大学院アジア・

アフリカ地域研究科研究員他)ベトナムにおける政教関係の変遷:新宗教カオダイ教を通して」5/28 藤井美和氏(関西学院大学教授)「スピリチュアリティ」「スピリチュアルペイン」そして「寄り添い」6/2 高橋卓志氏(松本市神宮寺(元)住職)「今こそ見つめる葬儀」8/24 日山崎浩司氏(静岡社会健康医学大学院大学教授)「官民連携によるグリーンサポートの展開―世田谷区グリーンサポート事業を事例として」9/24 久田満氏(上智大学総合人間科学部心理学科教授)「日本におけるがん医療の課題」12/7 日竹沢泰子氏(京大人文学部心理学研究所教授)「ステレオタイプとカテゴリー化をめぐる - 偏見や差別をいかに克服するか」2021年1/28 村田久行氏(対人援助・スピリチュアルケア研究所所長)「スピリチュアルペインとケア」3/3 児玉真美氏(作家)「コロナ禍で考える障害のある人と家族のウェルビーイング」

(3) 2021年5月14日から19日にかけて、60-79歳の男女1,000人を対象にインターネット調査「セカンドライフに関する意識調査」を実施した。実査にあたり、株式会社日本リサーチセンターに調査画面の作成手配、サンプリング(モニターの採用)、対象者への調査協力依頼、謝礼の手配、単一ファイルとしての回答データの整備を委託した。分析の結果は、2022年度の2回の研究会で検討し、2023年度の北海道社会学会でパネル発表を行う予定である。その成果を元に2023年度中に2023年度の夏までには第一次ドラフトを集約できる見込みである。2023年度末には書籍の形で『ウェルビーイングとウェルディングの臨床社会学的研究』を北海道大学出版会から刊行する予定で原稿を集約中である。

(4) 2021年から準備したウェルビーイング研究の書籍が、2022年に分担研究者と研究協力者により、**櫻井義秀編『ウェルビーイングの社会学』北海道大学出版会、A5判全320頁**として刊行された。目次構成は次の通りであり、ウェルビーイングとウェルディングの接続を図った包括的なテキストに仕上がっている。

第1章	ウェルビーイングとライフコース	その視点と射程
第2章	誕生から思春期まで	「子ども」「家族」「教育」の変容と多様性
第3章	子どもの貧困	社会が子どもの権利を守るために
第4章	若者のウェルビーイング	多様化する若者とその幸福像
第5章	生きがいの探求とカルト	メンタル・キャピタルとレジリエンス
第6章	職業生活とストレス	
第7章	社会のバロメーターとしての自殺現象	個人レベルと集団レベルから自殺を考える
第8章	結婚	多様化するライフコース・家族と幸せのかたち
第9章	キャリアとワーク・ライフ・バランス	家事・育児とジェンダー
第10章	障がいとウェルビーイング	障害者の暮らし・学び・就労
第11章	病いと向き合う人々のウェルビーイングと支援のあり方	
第12章	社会保障とソーシャルサポート	超高齢多死少子社会における介護問題
第13章	老いの諸相と居住環境	役割なき役割と準拠集団
第14章	東アジアの高齢者扶養と社会保障	福祉レジーム、家族支援型福祉の限界
第15章	人生の最終段階とグリーンケア	最期まで生きることを支える支援のあり方
第16章	データから見る日本と世界のウェルビーイング	指標を通して考えるこれからの社会とウェルビーイング

(5) 研究代表者に関して追加的な研究成果を述べれば、2022年7月8日の安倍元首相殺害事件に端を発する統一教会問題の浮上によって、専門家として国内外のマスメディア、新聞紙や週刊誌、テレビやYouTube、インターネット上でのインタビューや、対談、討論会出席など多数に及んだ。これらの社会的発信は、宗教が本来人々のウェルビーイングに貢献するという宗教の公共性や社会倫理性を本研究課題において探求してきた知見と経験に基づいたものであり、広い意味では研究成果の社会的還元と言えるのではないだろうか。また、学術書の刊行ということ言えば、中央公論新社から中公新書、**櫻井義秀『統一教会 - 性・カネ・恨(ハン)から実像をに迫る』**を刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 猪瀬 優理	4. 巻 なし
2. 論文標題 宗教は性別を問わないか ジェンダー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 櫻井義秀 編著 平藤喜久子 編著『現代社会を宗教文化で読み解く 比較と歴史からの接近』	6. 最初と最後の頁 55-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 猪瀬 優理	4. 巻 60
2. 論文標題 調査報告：広島・東北仏婦ビハーラ活動の会 調査中間報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 龍谷大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 75-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川又 俊則	4. 巻 5
2. 論文標題 老いを生きる人びとの信仰 高齢者福祉施設と地域包括ケアシステムに注目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 人文科学・社会科学編	6. 最初と最後の頁 129-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michinobu Ryoko, Yamamoto Masaki, Hori Tsukasa, Mikami Takahiro, Igarashi Keita, Iesato Kotoe, Takebayashi Akira, Tsugawa Takeshi, Kawasaki Yukihiko, Tsutsumi Hiroyuki	4. 巻 64
2. 論文標題 Children's decision making in cancer therapy: A long term observational study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatrics International	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hara TAKAHASHI	4. 巻 なし
2. 論文標題 Buddhist spiritual caregivers in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Routledge Handbook of Religion, Medicine, and Health	6. 最初と最後の頁 171-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 猪瀬 優理	4. 巻 93
2. 論文標題 新宗教におけるジェンダー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 3~30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20716/rsjars.93.2_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻井義秀	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 「カルト・脱カルト」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『臨床心理学-人はみな傷ついている-トラウマケア』	6. 最初と最後の頁 82 - 85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 片桐 資津子
2. 発表標題 カリフォルニア州医療援助死の支援活動に関する質的研究 政治的と臨床的の両立場の相いれなさに着目して
3. 学会等名 第69回日本社会福祉学会秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅原邦子、服部容子、横山聖美、川瀬文香、阿部香澄、梶原陽子
2. 発表標題 コロナ禍における北海道の民間グリーンサポートの会の活動実態
3. 学会等名 第45回日本死の臨床研究会年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 猪瀬 優理
2. 発表標題 ご霊地の復興をめざして 金光教門前町調査中間報告
3. 学会等名 日本宗教学会第80回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 猪瀬 優理
2. 発表標題 仏教婦人会を基盤とした病院ボランティア活動 広島県北仏婦ビハーラ活動の会を事例に
3. 学会等名 日本社会教育学会第68回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅原 邦子
2. 発表標題 人生の最終段階を在宅で生活するがん患者の包括的well-beingの研究
3. 学会等名 第45回日本死の臨床研究会年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 原
2. 発表標題 ケア従事者のための儀礼論試論
3. 学会等名 日本スピリチュアルケア学会第14回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 原
2. 発表標題 儀礼の力とグリーンケア
3. 学会等名 北海道大学大学院文学研究院応用倫理・応用哲学研究教育センター主催 第20回応用倫理・応用哲学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片桐資津子
2. 発表標題 米国カリフォルニア州の尊厳死をめぐる葛藤 政治的側面と臨床的側面に着眼して
3. 学会等名 第67回北海道社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Katagiri, Shizuko
2. 発表標題 Well-being and Mitori: Consideration of End-of-life Care and its Dilemmas in Japanese Nursing Homes
3. 学会等名 National Taiwan University, Taipei, Taiwan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Katagiri, Shizuko
2. 発表標題 Spirituality of Elders in Japan: Focusing on End-of-life Care in Japanese Nursing Homes
3. 学会等名 The Conference 2019 of East Asian Society for the Scientific Study of Religion (EASSSR) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋原
2. 発表標題 治療文化と臨床宗教師の役割
3. 学会等名 印度学宗教学会第61回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋原
2. 発表標題 臨床宗教師について
3. 学会等名 北村山看取りシンポジウム2019「日本人の死生観とスピリチュアルケア」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋原
2. 発表標題 臨床宗教師の役割と養成事業の現状
3. 学会等名 日本がんサポーターケア学会第4回学術集会JASCC & 東北緩和医療研究会合同シンポジウム「スピリチュアルケアを科学する」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YURI INOSE
2. 発表標題 Gender and sexuality in Japanese New Religions
3. 学会等名 The 2nd Annual Conference of the EASSSR 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫻井義秀
2. 発表標題 「人口減少時代の生き方 - フルスペックの人生を問い直す」
3. 学会等名 大谷大学フェアシンポジウム「人口減少時代の現在と次世代の育成」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshihide Sakurai
2. 発表標題 'Religion and Wellbeing: Viewpoints and Perspectives of Recent Research in Japan, '
3. 学会等名 A Symposium on Measuring Religiosity in the Global East (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫻井義秀
2. 発表標題 「大学のカルト問題 - アレフへの対応を中心に」
3. 学会等名 全国大学保健管理研究集会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 櫻井義秀	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 339
3. 書名 統一教会 - 性・カネ・恨（ハン）から実像に迫る	

1. 著者名 櫻井義秀・平藤喜久子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 292
3. 書名 現代社会を宗教文化で読み解く - 比較と歴史からの接近	

1. 著者名 櫻井義秀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 320
3. 書名 ウェルビーイングの社会学	

1. 著者名 櫻井義秀・平藤喜久子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 292
3. 書名 『現代社会を宗教文化で読み解く 比較と歴史からの接近』	

1. 著者名 高橋 原	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 348
3. 書名 死者の力 津波被災地「霊的体験」の死生学	

1. 著者名 平藤喜久子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 神話でたどる日本の神々	

1. 著者名 櫻井義秀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 438
3. 書名 宗教とウェルビーイング しあわせの宗教社会学	

1. 著者名 平藤喜久子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋館出版	5. 総ページ数 159
3. 書名 いきもので読む、日本の神話	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横山 聖美 (Yokoyama Kiyomi) (00735392)	天使大学・看護栄養学部・講師 (30122)	
研究分担者	横山 穰 (Yokoyama Yuzuru) (20244676)	北星学園大学・社会福祉学部・教授 (30106)	
研究分担者	片桐 資津子 (Katagiri Shizuko) (20325757)	鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授 (17701)	
研究分担者	高橋 原 (Takahashi Hara) (30451777)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	川又 俊則 (Kawamata Toshinori) (40425377)	鈴鹿大学・こども教育学部・教授 (34105)	
研究分担者	平藤 喜久子 (Hirahuji Kikuko) (50384003)	國學院大学・神道文化学部・教授 (32614)	
研究分担者	猪瀬 優理 (Inose Yuri) (60455607)	龍谷大学・社会学部・准教授 (34316)	
研究分担者	ホメリヒ カローラ (Carola Homerich) (60770302)	上智大学・総合人間科学部・准教授 (32621)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	菅原 邦子 (Sugawara Kuniko) (70301695)	天使大学・看護栄養学部・教授 (30122)	
研究分担者	道信 良子 (Michinobu Ryoko) (70336410)	札幌医科大学・医療人育成センター・准教授 (20101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関